



習熟度別クラス編成における 成績評価の分析

2019/03/08
京都外国語大学
総合企画室IR推進グループ
西出 崇

報告の構成

- 分析の背景・対象・目的
 - 習熟度別クラス編成と成績評価
- IRの役割
 - 学科・教務部・IR部門
- 分析の視点と方法
- 結果と考察
- 成果と課題
 - 結果のフィードバックと活用
 - IRと学科の関係

分析の背景と対象

- 外国語科目における習熟度別クラス編成
 - 教育効果や授業運営などから一般的に採用されるクラス編成
 - 入学時のプレイスメントテストや前学年の成績でクラスを編成
- 成績評価の問題
 - クラスの習熟度によって異なる教材や授業内容が展開される
 - 難易度が異なるクラスでも同一科目の成績となるのでレベル間の成績評価に不均衡が生じる可能性がある
 - クラスによって授業の難易度などが異なるため同じ「80点」でも位置づけが異なる
 - しかし科目としては同一であるため成績評価上は等価
 - GPAに換算したときに不公平が生じる可能性がある

分析の背景と対象

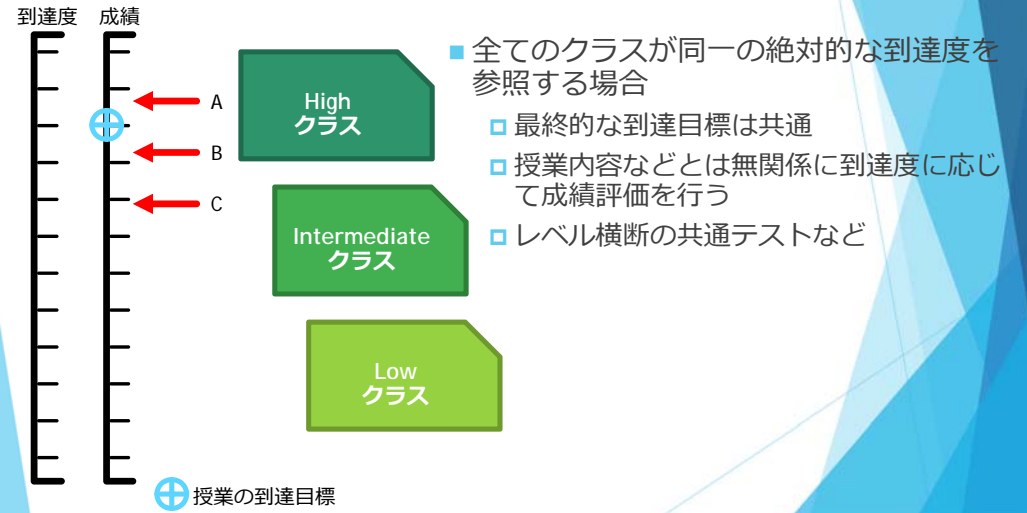
- 習熟度による成績評価の分布調整
 - 習熟度の違いによる授業内容や難易度を反映し、それぞれのクラスにおける到達度に応じて成績評価に傾斜をつける
 - 習熟度別クラス編成を採用する場合にしばしば行われる
- 成績分布の調整方法とその度合い
 - クラスによる成績調整の方法には様々な方法がありうる
 - 到達度や評価基準の設定
 - 各クラスの担当教員の関与の度合い
 - クラス横断的な評価基準の導入（外部テストや共通テストなど）
 - 習熟度間の成績分布の調整（傾斜）の度合いの妥当性や公平性
 - レベル間で成績評価にどの程度の差をつけるか

習熟度別クラスの成績評価

成績評価には様々な方式が考えられる

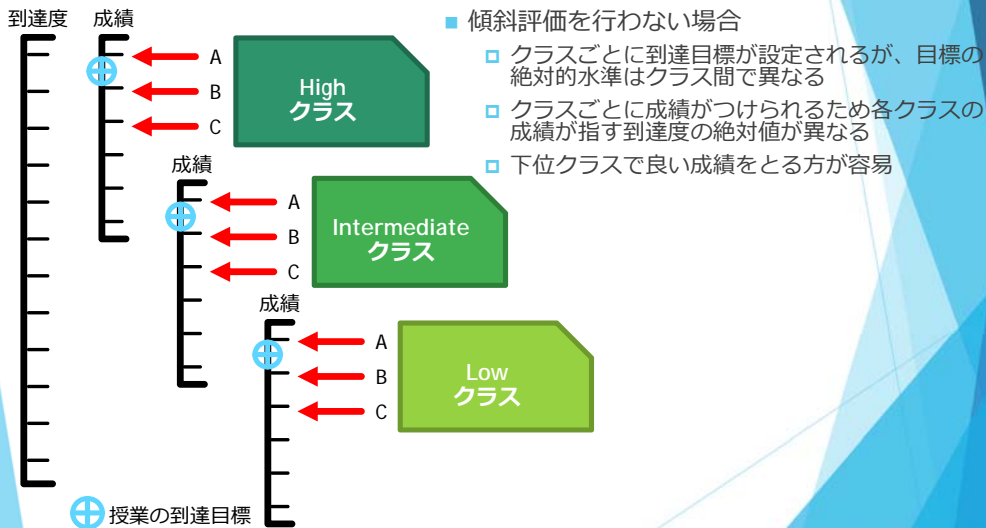
5

習熟度別クラス編成における成績分布調整



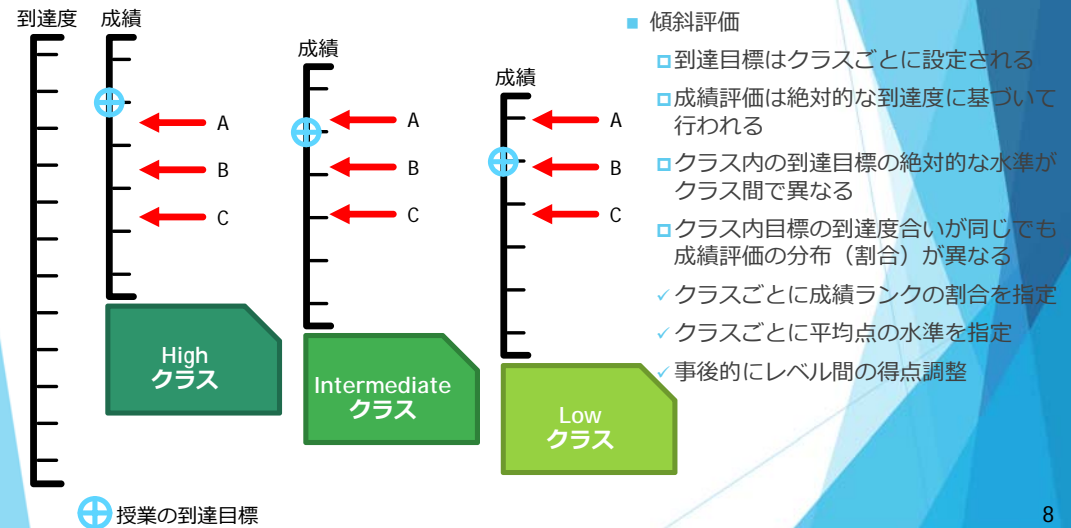
6

習熟度別クラス編成における成績分布調整



7

習熟度別クラス編成における成績分布調整



8

分析に用いる事例

■ A大学における外国語（英語）系学科の取組

□ クラス編成と授業内容

- 1年生はプレースメントテスト（TOEIC）、2年生以上は成績とTOEICなどの外部試験のスコアを加味して習熟度別にクラス編成
- High、Higher-Intermediate、Intermediate、Lower-Intermediate、Lowの5段階
- 授業内容は基本的にHigh、Intermediate、Lowの3段階で運営（レベルごとに異なる教科書を指定するなど）

□ 2018年度から必修科目で習熟度別に傾斜的な成績評価基準を導入

- 各学年のすべての必修科目について習熟度に応じた傾斜的な評価基準を設定
- クラスの習熟度に応じて成績素点の平均値ターゲットを緩やかに共有
- High：80点 Intermediate：75点 Low：70点
- 非常勤講師を含めてすべての担当者に依頼

9

分析に用いる事例

■ A大学における外国語（英語）系学科の取組

□ 2017年度までは習熟度による成績分布調整は行われていない

- 全学的な成績評価の指針（平均点を概ね70点台とする）に基づいて教員が個別に成績評価
- 共通テストや外部テストの成績への組み入れなどは実施されていない
- 科目編成や授業運営方法などは2018年度も変更なし

✓ 実施前後の比較が可能な貴重なデータ

- 同一カリキュラムにおいて実施された試みであることから、実施前後の効果や影響を検証できる

10

分析の目的

■ 習熟度別クラス編成における成績分布調整の効果検証

□ 成績分布調整の実施方法

□ 実施前後の変化

- 評価基準の共有によって生じた変化

■ レベル間の成績調整の「**度合い**」の妥当性検証の試み

□ レベル間の成績にどの程度差をつけるのが妥当か

- 様々な視点が考えられるが学生の到達度や実力を基準に検討

□ 実施前後の比較による検討

- 実施前に生じていた「不具合」が是正されたといえるか

11

分析の視点と方法

■ 個別科目ではなく必修科目全体の効果を中心に検討

□ 外国語系学科のため基幹的な必修科目が全て習熟度別クラス編成

- 習熟度別クラス編成科目が相対的に多くなるため、レベル間の成績評価の不均衡がGPAなどに影響する度合いが大きい
- 成績評価の分布調整の問題は個別科目の問題にとどまらない

□ 関心は個別科目ではなくカリキュラムレベルでの効果

- 学生の得意・不得意、教員間の評価のブレ、科目特性などにはあまり注目しない
- 2018年度から分析対象とするいずれの科目も共通で傾斜的な評価基準を導入
- 導入の前で成績評価の分布がどう変化したのか
- 習熟度間の成績評価が学生の到達度や実力を反映しているか

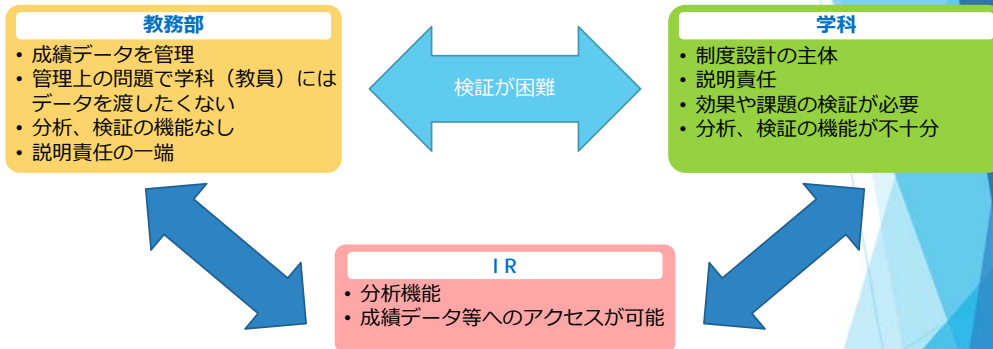
12

ところで・・・

ここでのIRの立ち位置や役割とは？

13

IRの立ち位置と役割



- データへのアクセスと分析機能を持つIRが教務部と学科を媒介
 - 専門的な分析機能の提供とデータ管理の問題を解決
 - 成果の客観的な評価や全学的な共有

14



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies
京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

※以降は当日提示

京都外国語大学
総合企画室IR推進グループ
西出
t_nishide@kufs.ac.jp

15